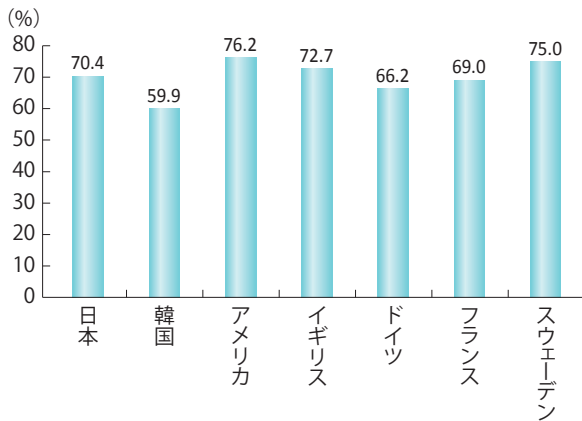
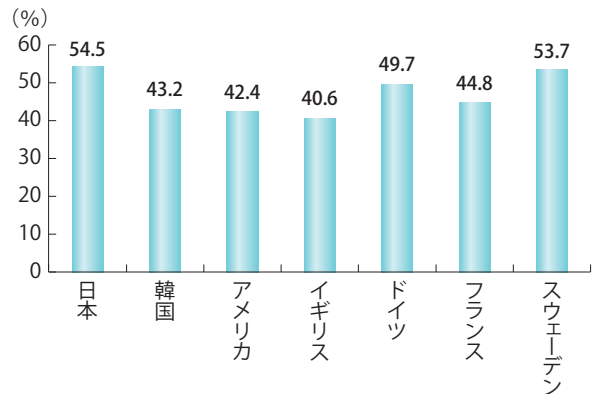


**図表 13** 自国人であることに誇りを持っている



(注)「あなたは、これから述べることについてどう思いますか。」との問いに対し、「自国人であることに誇りを持っている」に「はい」と回答した者の合計。

**図表 14** 自国のために役立つと思うようなことをしたい

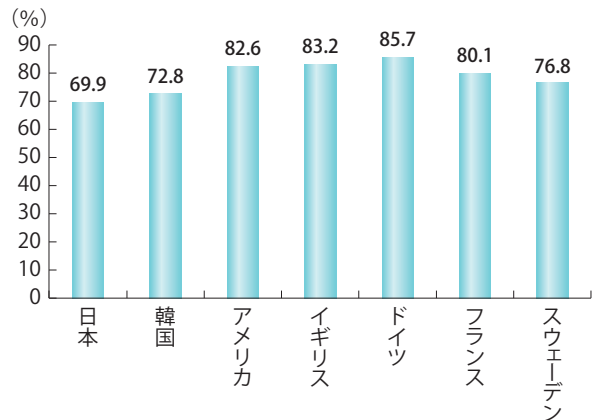


(注)「あなたは、これから述べることについてどう思いますか。」との問いに対し、「自国のために役立つと思うようなことをしたい」に「はい」と回答した者の合計。

## 5. 学校

○学校生活への満足度は、諸外国と比べると相対的にやや低い。(図表 15)

**図表 15** 学校生活の満足度



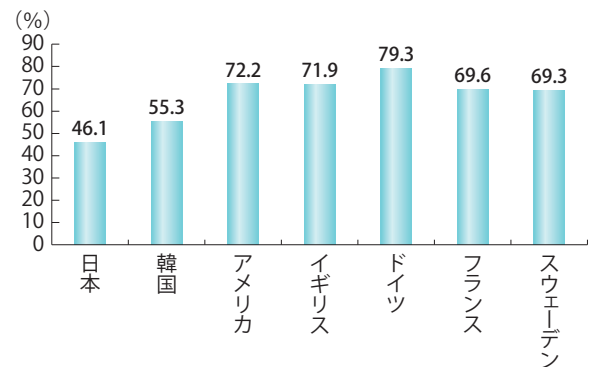
(注)「あなたは、学校生活に満足していますか、それとも不満ですか。」との問いに対し、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した者の合計。  
現在、学校へ行っていない者は、学校に行っていた時のことで回答

## 6. 職場

○職場への満足度は、諸外国と比べて低い。(図表 16)

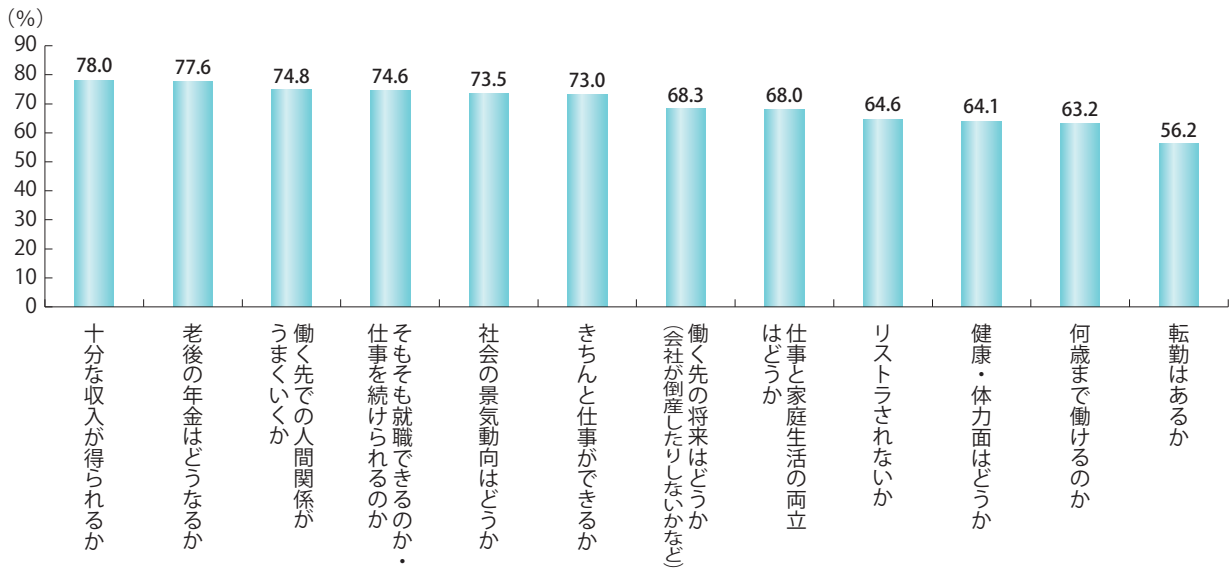
○働くことに関する現在または将来への不安は、多くの項目で高くなっている。(図表 17)

**図表 16** 職場の満足度



(注)「あなたは、今の職場に満足を感じていますか。」との問いに対し、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した者の合計。

図表 17 働くことに関する現在・将来の不安

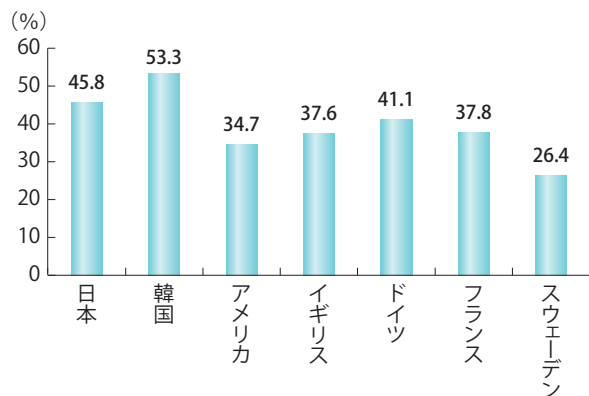


(注) 各項目において「不安」「どちらかといえば不安」と回答した者の合計。

## 7. 結婚・育児

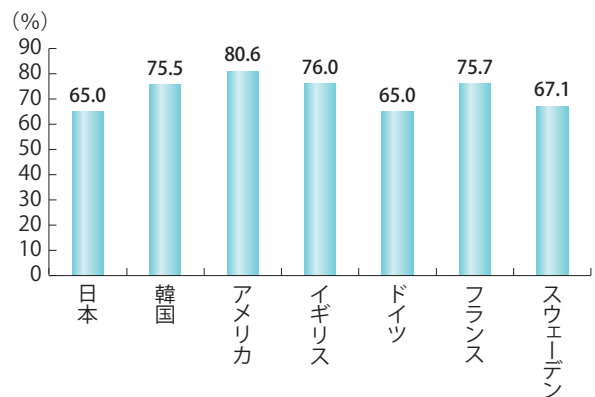
- 早く結婚して自分の家庭を持ちたいと思っている意識が、欧米諸国と比較して相対的に高い。(図表 18)
- 一方で、40歳になったときに、結婚している、子どもを育てている、というイメージを持っている者の割合は、諸外国と比較して相対的にやや低い。(図表 19)

図表 18 早く結婚して自分の家族を持ちたい



(注) 「次のことがあなたがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。」との問いに対し、「早く結婚して自分の家族を持ちたい」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

図表 19 40歳になったときのイメージ (結婚している)



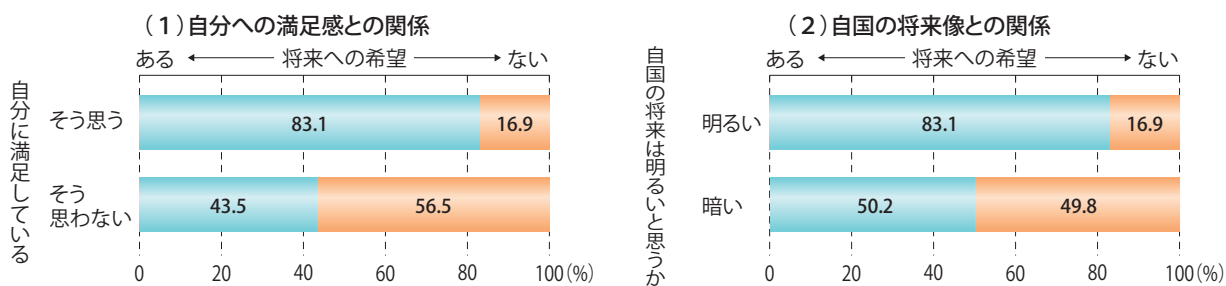
(注) 「あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。」との問いに対し、「結婚している」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

## 8. 若者の意識から得られる施策への示唆

### (1) 将来への希望

- 諸外国の若者と比べ、自分の将来に明るい希望を持つことができていない。
- 将来に明るい希望を持てるかどうかは、①自分自身を肯定的に捉えられているか（内部要因）、②自国の将来を肯定的に捉えられているか（外部要因）が関係。
- 自己肯定感が高い若者や自国の将来に明るいイメージを持っている若者は、同様に将来への希望を持っている割合が高い。（図表20）

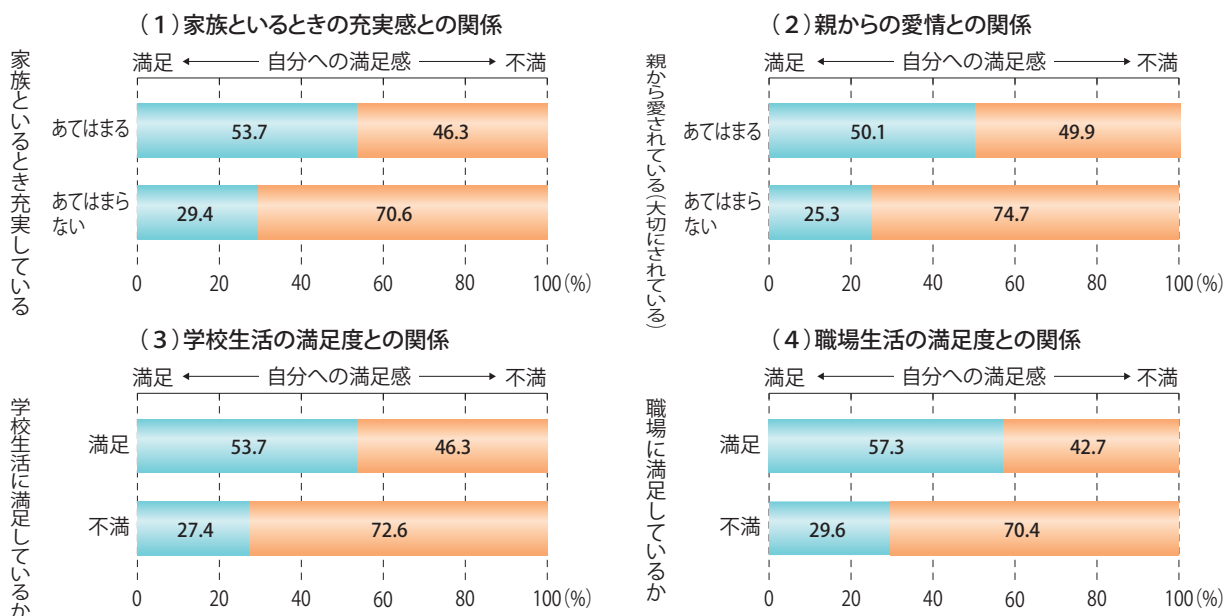
図表20 将来への希望と自己肯定感などとの関係



(注) 「自分への満足感」と「自国の将来像」について、「将来への希望」との関係性の深さ（相関係数）をみると、「自分への満足感」の方が関係が深い（相関係数が高い）ことがわかる。  
 「将来への希望」と「自分への満足感」との相関係数 0.45  
 「将来への希望」と「自国の将来像」との相関係数 0.26

- 自己肯定感が高い若者の特徴をみると、家族関係、学校生活、職場生活が充実し、満足している若者ほど、自己肯定感が高い<sup>1</sup>。（図表21）

図表21 自己肯定感と家族関係・学校生活・職場生活との関係



(注) 1. 「(2) 親からの愛情」は、父親または母親が健在である者のみが回答の対象。  
 2. 「(4) 職場生活の満足度」は、就労者のみが回答の対象。「わからない」との回答は除いている。

1 先行研究でも、親との信頼関係が成り立っている子に自信のある子が多いことや、家庭・学校・地域で自分が役に立つ存在であることを経験する機会を通じて自分の能力や存在意義を確認することで自信に変えていけるといった指摘がなされている。

○したがって、子育て支援や家庭教育支援、きめ細やかで質の高い教育の実現に向けた環境づくりや地域ぐるみでの学校支援などが重要。

○家庭・学校・地域が一体となって、子ども・若者の成長を温かく時には厳しく見守り、支えることのできる環境づくりを一層進めることは、子ども・若者が社会とのかかわりを自覚し自己肯定感を育むことにつながり、ひいては子ども・若者が将来に明るい希望を持つことに寄与。

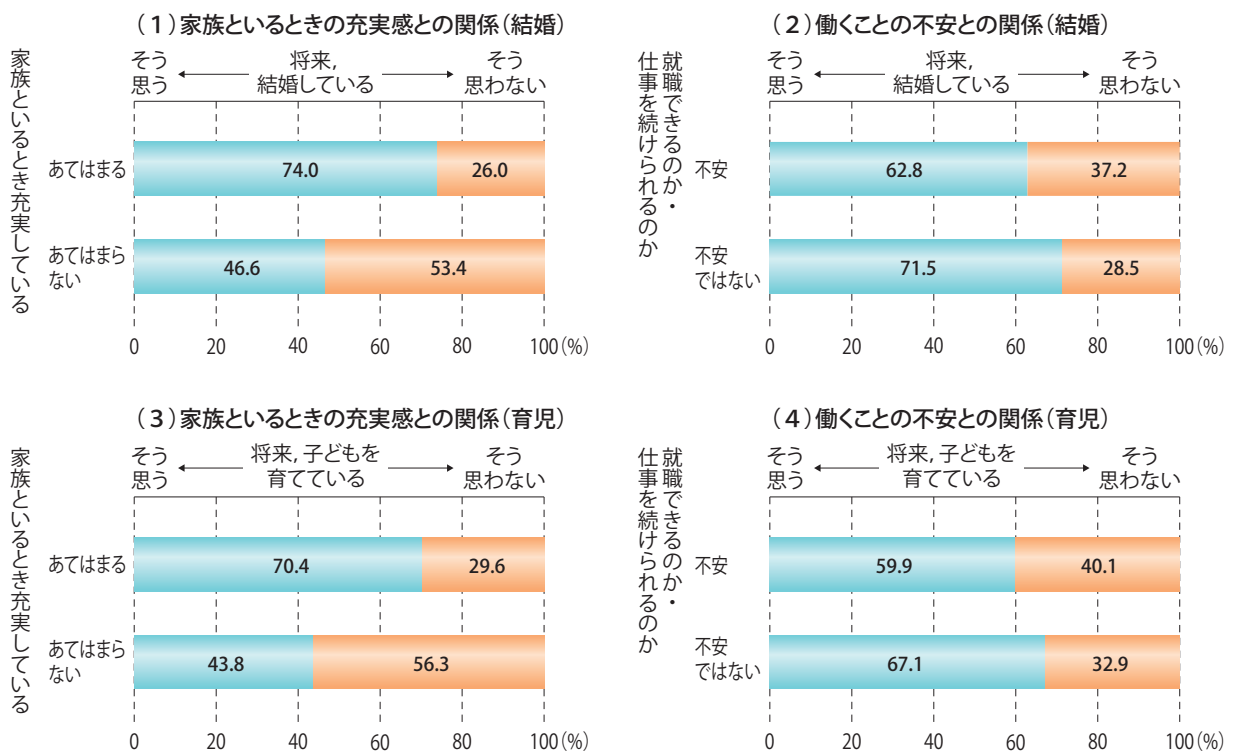
## (2) 結婚・育児に対する意識

○早く結婚して自分の家庭を持ちたいという希望がある一方で、将来結婚している、あるいは子育てをしているといった将来イメージを持つことができていない。

○親子関係が良好であったり、働くことへの不安が少ない若者ほど、結婚や育児の将来像を前向き。

(図表22)

**図表22** 結婚・育児に対する意識と親子関係・働くことへの不安との関係



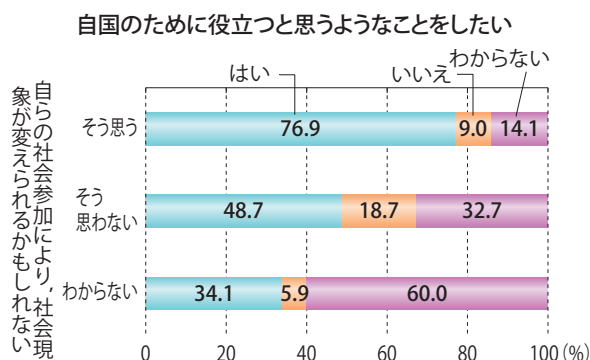
○子育て支援や家庭教育支援といった家族への支援を一層充実させるとともに、家族の大切さなどについての理解を促進することにより、若者が自らの家族形成に明るい将来像を描きやすいものに。

○就労に関しては、若者の経済面における安定確保に向け、キャリア教育や職業的自立の支援を進め、若者の仕事に関する不安を払拭していかなくてはならない。

### (3) 自国への認識

- 日本のために何らか役に立ちたいのだけれども、具体的にどのように関与できるのか、また、自らの社会参加により具体的に社会を変えられるのかについては確たる意識を持つことができていない。
- 自らの参加により社会現象を少しは変えられると考える若者は、自国のために役立ちたいという思いが強い。(図表23)
- 若者が主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を身に付けるため、社会形成・社会参加に関する教育をはじめ社会形成への参画支援を一層進めることは、誇りある自国に役立ちたいという若者の思いにも応えることに。

図表23 自国に役立ちたいという意識と社会参加意識との関係



## おわりに

- 現在、子ども・若者育成支援推進法に基づく大綱の総点検を実施中。これを踏まえ、今後、新たな大綱を検討する予定。
- 新たな大綱を今後検討する際には、この調査結果や得られる示唆も十分に活かしていく。